

国語科 1年

磨け！MC力 中学生の「〇〇ほしい・したい」を刺激しよう

担当 釘宮里枝

【活動の目標】

話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などの区別に注意して、話の構成を考えることができる。(思考・判断・表現 A-I)

【 問 い 】

- ・自分のスピーチを聞き、構成を再検討しよう。

今回 ICT を活用した場面	従来 of 活動
B1 ・スピーチを撮影し、自分や班のスピーチを聞きなおすことで、話の構成の改善点を考える。	・班の中で聞き合い、アドバイスをしあう。

【資料】撮影および聞きなおしの様子



【ICT 機器を活用する良さ】

音声言語（話す聞く領域）を扱うときのむずかしさは、一回性である。お互い聞き合ってアドバイスをすることはできるが、それでは、客観的に自分の話を振り返ることができない。そこで、今回は、ICTの「残しやすさ」「繰り返しやすさ」を活用した。

○残しやすさ…自分の声や表情を残すことができるため、客観的に確認ができる。また、残すことによって、意欲も高まる。

○繰り返しやすさ…構成を考える上、情報と情報のつなぎ目となる接続する言葉に着目させた。その言葉を聞き取るために、何度も聞きなおす様子も見られた。また、表現の癖などにも気づき、改善させようとする姿が見られた。

【改善すべき点と原因および改善案】

○班ごとでの撮影で、10人が同時に話した。その状況で音声を確実に撮るため、ヘッドセットを使用した。音声はしっかり撮ることができたが、その分、撮影に集中しすぎて、対面している相手に伝えるという意識が低くなった。オンラインの弊害（相手に伝わる声量で話せない）になると考えられるため、今後は、使い方を考えたい。

